

第 16 回多摩市総合計画審議会 議事要点録

1. 日時：平成 22 年 1 月 25 日(月曜)午後 6 時 30 分～9 時 00 分
2. 場所：市役所 特別会議室
3. 出席委員：11 名
4. 欠席委員：篠田委員 今川委員 兼坂委員 岡田委員
5. 議題

(1) 配布資料等の確認

事務局 資料 48 基本構想(案)については、前回審議会での議論を踏まえ修正した。資料 49 は前回、合計特殊出生率について正確な数字を確認することになっていたため、合計特殊出生率、人口推移等をまとめたものを配布している。資料 50 は目指すまちの姿の概念図について、前回の意見を反映して修正したものである。その他の資料として、想定人口について会長からいただいた案の資料、委員からいただいた新たな公共についての提案を資料として配布させていただいた。参考資料として、前回の審議会で定義があいまいであり議論になった地域主権と新しい公共について事務局で調べてまとめたものを配布している。

(2) 第五次多摩市総合計画 基本構想案について

会長 前回に引き続き審議を行う。前回基本構想の案について 7 ページまで審議したので、最初に 8 ページ以降について審議し、次に想定人口と将来都市像のキャッチフレーズについて審議する。その後で前回の審議を踏まえ私と事務局で修正した基本構想の案について審議したい。8 ページ分野 4 の「働き、学び、遊び みんなが活気と魅力を感じるまち」について意見はあるか。

会長 「多摩市の魅力の再発見に努め」とある文に、具体的な多摩市の魅力の例として「自然や歴史的、文化的な資産など」というような言葉を加えたらいかかがか。

委員 より具体的になるので取り入れたほうが良いと思う。

会長 「自然や歴史的、文化的な資産など」という表現を取り入れることとする。

委員 「市内事業者や大学」とあるが市内事業者に限定する意図はあるのか確認したい。

会長 特に無ければ市内事業者については事業者と修正する。次に分野 5 の「いつまでもみんなが住み続けられる安全で快適なまち」について意見はあるか。

会長 「既存公共施設のあり方を検証し」とあるが、「検証」とする意味は何か。

事務局 既存の公共施設が本当に必要な施設であるか検証するということ。ストックをなるべく少なくしていく意味あいでは使っている。

会長 検討とは違うのか。新しいものではなく既にあるものについて考えるから検証なのか。

事務局 公共施設のあり方について、以前資料で配布したように考え方は既に示している。今後は個々の施設について、必要性等の検証を行い、今後のあり方を検討していく。検討という意味も含んでいる。

会長 他に意見が無ければ、次に分野 6 に議論を移したい。

委員 分野 4 で「都市の農業の育成や充実を含め」とあるが、分野 6 でも農地の保全について入れなくて良いか。どう入れたら良いかがわからないが、できることならば入れたい。

- 会長 農地の保全については、事業計画で具体的に入れていけばよい。分野4で都市の農業の育成と充実と入っており、6でもみどりの保全ということで大きな方向性を示している。
- 委員 会長の意見のように実施計画レベルで述べていけばよいと思う。
- 委員 第四次総合計画基本構想では、環境分野でみどりのほかに水についても触れていて、「多摩川・大栗川・乞田川などの水辺空間づくり」とある。今回は特に水についての記述をしなくても良いのか。10年前の時点では、特に水に関する問題があったので、このように具体的に述べられているということか。
- 事務局 第四次総合計画では、河川だけではなく、地下水の涵養など、循環型社会の中で水も循環していくということで記述している。施策としては下水道の枘や道路の浸透性などの課題はある。要素としては水の問題は環境の問題と切り離せないものであるが、基本構想でどこまで述べるかは判断の問題と考えている。
- 委員 下水道の整備は100パーセント終わっているか。
- 事務局 一部整備されていないところもあるが、基本的に生活範囲では整備が終わっている。
- 会長 水とみどりは不可分であるので、どこかで水の問題についても触れておきたい。
- 委員 水とみどりをセットにすることに異論は無いが、「水の創出」とはどういうことになるか。
- 委員 第四次総合計画では「水とみどりの空間の形成」となっている。
- 会長 水の創出ということではないかもしれないが、現在、護岸用のコンクリートの部分を水辺空間として改修している。地下水が枯渇したということも言われているようでもあり、水は大事だと思う。少なくとも、水辺ということを入れていきたい。
- 事務局 水辺環境の計画では、子どもが川べりに降りて水に親しむことができる空間を作っていくことが必要だということ言われている。この事業はまだ完了していないので、その辺のことは必要があるかと思う。
- 会長 次に9ページの基本構想の推進に向けた行財政運営の基本姿勢について議論を移したい。
- 事務局 行財政運営の基本姿勢の「1. 互いに支えあう『新しい公共』のさらなる推進」については、前回の新しい公共についての議論を踏まえて会長と事務局で内容を修正しているので、本日配布した資料48を参照していただきたい。
- 委員 修正前は、「新たな支えあいの仕組み」によるまちづくりとあるが、鉤括弧で閉じて表記しているのは、今までの多摩市の施策の中で使われている表現ということか。
- 事務局 「新たな支えあいの仕組み」という言葉は、以前から使っている。
- 委員 修正案では、それを発展させるためにお互いに支えあうという表現に変えているのか。
- 事務局 同じ意味で使っていて、「新たな支えあいの仕組み」を言い換えたということではない。
- 委員 タイトルは「互いに支えあう」としているが、新しい公共は、お互いに支えあうのではなく、お互いに担い合うということなのではないか。支えあうだと相互福祉をするようなイメージになる。
- 会長 多摩市で従来から言われている新しい公共はお互いに支えあうということで成立するひとつの公共分野である。しかし、最近では新しい公共については、いろいろな意味で使われている。ここでいう「新しい公共」のさらなる推進というのは、多摩市がこれまで使ってきた意味で、公共分野をお互いに支えあうということであるが、中身は分担し合うということでもあるので、支えあうということと、分担し合うということ二つの意味が含まれていると思う。
- 委員 文章では分担していくことが述べられているので、読みとれるのだが、タイトルでは互い

- に支えあうとだけなっていて、分担し合っていくということが伝わらないのではないか。
- 会長 タイトルは「互いに支えあう」を削除し、『新しい公共』のさらなる推進」とするので良いのではないかと。それと、3行目の「行政が担ってきた」を「行政だけで担ってきた」に変更したらどうか。行政が担ってきた公共の領域を市民と分担するという事だと、いかにも市民に責任を押し付けるようなイメージがある。ここは、公共の領域はほかにもあるが、行政だけが担ってきた部分を分担していくとしたほうが良いのではないかと。
- 委員 「行政だけが担ってきた」と限定してしまうのは、語弊があるのではないかと。消防団の取り組みなど市民が担っている公共の分野もある。
- 委員 コミュニティセンターの運営は市民が担っている。
- 会長 「行政が担ってきた」については「主として行政が担ってきた」に修正する。
- 委員 タイトルは削除する方法もあるが、「互いに担い、支えあう」と表現を加えると分かりやすくなるのではないかと。
- 会長 タイトルは「互いに支えあう『新しい公共』」を「互いに担い支えあう『新しい公共』」に修正する。次に「2. 効率的で質の高い行政運営の推進」に議論を移したい。
- 委員 経営という言葉が使われている。NPM（ニューパブリックマネジメント）を推進する立場の人は「経営」という言葉を使うが、一方で行政側からすると経営ではないという議論がある。多摩市では経営という表現を使うことに違和感はないのか。
- 事務局 多摩市では通常、自治体経営という言葉を使っており、違和感はない。
- 会長 行政評価について、外部評価を取り入れてないので、その導入も含めて新しい経営手法を検討し活用していくということで良いのではないかと。
- 委員 「経営」を前面に出すことで費用面だけを重視し、サービスの低下を招くことは避けたい。
- 会長 いろいろな意見があるが、もう少し経営的な視点で取り組んで欲しいという意見もある。
- 委員 前段の「図ります」までがやりたいことで、そのために、人材育成と組織作りと新しい経営手法の活用を図ると理解すればよいのか。「また、新しい」以下の文章がとってつけたように見えて、前段の文章のつながりが分かりづらい。修正前の案のほうが文章の構成としては読みやすかった。このような文章に変更した理由があれば確認したい。
- 会長 市民サービスを提供することがまずあって、そのために、市の内部の組織作りや職員の育成をしていくというのが考え方の順序である。修正前の案では、手段である組織作りや職員の育成が初めにきて目的が後ろになっていたのでは、逆ではないかということで修正した。
- 委員 市民サービスを先にすることに異論はないが、後段とのつなぎの表現を工夫したほうが良い。
- 委員 目的が「施策や事業の効率性を向上させ、効果的に市民サービスを提供する」で、それを実現させるための手段が「人材や行政財産等の行政資源の有効活用を図ります。」ということだとすると、「とともに」で文をつなぐのはおかしい。「効果的に市民サービスを提供します。そのために人材や行政財産等の」と変更したらよい。
- 会長 そのように変更する。
- 会長 「新しい経営手法を積極的に検討し」とあるが、これからは検討段階ではなく、活用していく段階なので、検討は削除して「積極的に活用を図ります」としたほうが良いのではないかと。
- 委員 活用を図るという表現に違和感がある。
- 会長 検討という表現については削除することとするが、文章については整理して修正する。次

に「3. 明日へ繋がる財政構造の構築」へ議論を移したい。

会長 財政構造の構築なのか、財政の構築なのか。構造について議論を始めると、どういう目標があるのか、どういう構造が良いかなど話が広がってしまう。財政が健全であれば良いので、「明日へ繋がる財政の構築」としてはどうか。

会長 3行目、「財政運営の確保に努め、積極的な情報共有を進めながら、財政危機を乗り越えてきました。」とあるが、「積極的な」以下の部分は必要ないのではないか。「財政運営の確保に努めてきました。」などの表現にしたほうが良いのではないか。

委員 財政危機を乗り越えてきたのが事実であれば、述べても良いのではないか。

事務局 確かに何度か財政的な危機があった。こういった中で、行財政再構築プランや戦略プランで歳入に見合った歳出に変換し、一部市民の方にも負担いただき、事業の抜本的な見直しをしながら、乗り越えてきた経緯がある。基本構想では今後どうしていくかということがポイントになるので、過去の事実を基本構想で述べていくかどうかは審議いただきたい。

会長 どの自治体にも共通することだが、景気が悪くなると財政危機だと言って、景気が良くなればなんとなく過ぎてしまう印象がある。もちろん、行財政改革はやってきているが、やるべきことをやってきただけである。財政的な危機を乗り越えてきたことを強調するほどのことではない。今後、財政危機があっても乗り越えていくという意欲は分かるが、あえて過去のことを基本構想で述べていく必要はないのではないか。

委員 今までの多摩市の財政の収入構造を考えた場合、個人市民税と固定資産税が収入の大きな割合を占めており、法人関係税に税金を依存してこなかった。そのため、今までは景気の影響をダイレクトには受けてこなかったし、人口も減少してきていないので、個人市民税と固定資産税が安定して収入を支えてきた。そのため、歳出をコントロールすれば、行財政運営は可能だったのが現状ではないか。しかし、今後は多くの市民、特に収入の高い市民がリタイアして個人住民税の減収が見込まれ、また、人口減社会で土地の価格が下がり続けることが確実であるため、固定資産税も減少することが想定される。今後20年間を考えると、歳入が相当不足するということがこれからの多摩市にとって大きな課題になるのではないか。今までは歳出構造の変更で乗り切ってきたが、今後は歳入まで踏み込み、抜本的な構造を改革していかななくてはいけないという意味合いが含まれていると読み込んだので、「財政構造の構築」ということに違和感は抱かなかった。

会長 多摩市では長期的に財政状況が苦しくなっている現状があるが、財政危機を乗り切ってきたということではないのではないか。確かに個人住民税の減収や、地域主権の進展で自前の財源で自治体運営を行っていかなくてはいけない状況になってくるので、楽観はできない。厳しい見方をしたほうが良いのであって、これまで財政危機を乗り越えてきたから、今後も乗り切っていけるという強調の仕方はいかがなものか。「これからも厳しい状況が続くので、引き続き健全な財政運営の確保をすることが重要である」という程度の表現でよいのではないか。

会長 「積極的な情報共有を進めながら」というのは触れなくても良いのではないか。これは、市民の協力を得ながらという意味があるか。

事務局 財政危機を乗り越えていくためには市民との情報共有が必要だということで、行財政診断白書や財政白書を作成して市民との情報共有を図りながら、市民の痛みを伴いながらもなんとか乗り切ってきたという状況を踏まえ、「積極的な情報共有を進めながら」という表現になった。

- 委員 歳出を削減していくということで、コミュニティセンターの運営費が縮小するという状況を、コミュニティセンターを利用する人や運営している人に説明する立場であったが、非常に苦労した経験がある。この経験からすると、情報共有は非常に重要だと感じているが、ここに入れるかどうかは別な話だと思う。財政危機を乗り越えてきたということでは、多摩市の健全な財政運営が国に評価され、市長が国の機関の委員になっていたのではなかったか。国の評価を受けるような行政運営を行ってきたということではないか。
- 事務局 前政権での話だが、自治体の代表ということで多摩市長が「行政支出総点検会議（無駄ゼロ会議）」の委員に入っていたことがある。
- 委員 これからどうなるか、今後は財政状況がさらに厳しくなることを具体的に、リアルに訴えていっても良いのではないか。
- 会長 今後はますます財政状況が厳しくなるのは間違いないので、そのことを加えていくこととする。文章は改めて検討していく。
- 委員 「徹底した行財政改革に努め」とあるが、ここで述べる必要があるか。第4章全体を通して行財政に関わる今後の基本姿勢について述べていて、この部分にきて始めて「徹底した行財政改革」という表現が出てきている。「行財政改革」についての定義がされておらず、唐突な印象がある。全体を通して行財政改革をしていくということを述べていると理解していたので、分野3だけにこの表現があることに違和感がある。
- 会長 行財政改革、財政改革についてはどこかで触れたいことのひとつである。ふさわしいのが3つの中ではここではないかということを入れていく。
- 委員 「明日へ繋がる財政構造の構築」が財政改革と理解してよいか。
- 委員 行財政改革は有効性の乏しい事業を切っていくなどのリストラを進めながら、一方で歳入の確保に努め、均衡財政を維持していくということ。今後は今までのようなやり方では対応しきれないということで、「徹底した」という表現を使っているのではないか。ただし、この文章で市民に伝わるかどうかは疑問である。
- 事務局 行政改革といった場合に、単に減量経営をしていくということではなく、社会状況が変わってきている中で、公的サービスを担うことができる市民やNPO、大学、事業者など様々な担い手を緩やかに組織化して、主に行政が担ってきたものを分担し合っていくような仕組みに変えていきたい。収入が少ないからといって単に減量していただくだけではない、豊かな政策を追求していきたいという思いが行政側にはある。
- 会長 全体を通じて、将来のことなので、リストラのようなことには触れていくという性格のものではないが、今後の状況を考えると、基本路線を変えるような改革の必要性があるということで、この部分で述べた。ただし、場所についてはより適切な場所があれば教えていただきたい。市当局では、行政改革をしてきたということだが、市民から見たらもっとできるという声はどこの自治体でもある。こういった審議会では、市民の目線から見てもっと行政改革をする必要があると入れたほうが良い。新しい公共、新しい担い手という発想は、やはり財政の苦しいことが影響している。高負担高福祉の北欧諸国などでは新しい公共ということあまり言われない。財政の苦しいところが強調する傾向にある。
- 委員 民主党政権がよく言っている新しい公共はイギリスを参考にしている。イギリスでは、サッチャー政権時代、非効率な公共サービスを民間に開放したら、サービスが向上したと高い評価を受け、社会的な支持を受けた。日本の場合、すでに高い水準の公共サービスが確立されているので、そのまま輸入してうまくいくかどうかは疑問であり、これからの課題

- である。多摩市では、すでに高いパフォーマンスのある公共サービスを活かしながら、行政が旗振りをして、うまく新しい仕組みに組み入れていくという設計がベストだと考える。
- 委員 「徹底した行財政改革に努め」の部分全体にかかる文だとすると、第4章の前文2行目の「長期的な社会経済情勢の動向等を見極めながら」の後に「徹底した行財政改革に努め、将来にわたって持続可能な行財政運営の確立を目指していきます。」と続けたらどうか。
- 会長 意見のとおり修正する。また「今後はさらに、人口減少・超高齢化社会などの社会経済情勢の変化」の後に「財政状況がますます厳しくなる」という一文を加えることとする。
- 委員 この文章からは低負担高サービスということが読み取れる。低負担高サービスという状況が果たして続くのか。今後20年の間には北欧のような高負担高サービスという状況になる可能性もあるので、ある程度そういった可能性もイメージしておく必要があるのではないか。
- 会長 今よく言われているのは、中負担、中福祉である。
- 委員 この文章からはひたすら低負担を求めているように読み取れる。
- 会長 負担に触れていない。負担の中心は税負担である。今後は消費税の値上げも検討されるだろうという状況で、全体のトーンとして、厳しさという面では弱いかもしれない。しかし、多摩市の基本構想で高負担高福祉にするとか、税制のことについて触れることはできないので、公共施設の使用料をどうするか、その程度のことしか書けない。
- 会長 起草委員からの素案について一通り議論が終わったところで、想定人口と基本構想のキャッチフレーズについて議論したい。
- まず、想定人口について議論したい。お手元に配ってある人口想定（案）の資料を参照いただきたい。20年後、平成43年4月時点の想定人口がある。事務局からは、以前に上位想定149,716人と下位想定146,020人、この間くらいではないかという説明があった。これをみるとだいたい145,000人から150,000人の間くらいになるのではないかということで第1案から第3案を提出している。平成22年1月1日現在の人口は148,018人ということで、若干ではあるが人口が増えているという状況である。東京都でも、しばらくは人口が増加して、その後減少していくことが予測されている。日本全体では、2005年から人口減少が始まっているのが実態のようだ。多摩市の想定人口を150,000人とすると楽観的過ぎる気がするし、145,000人とするとここまで減るかなという気もする。いずれにしても、想定人口によって基本構想の全体が大きく変わることは無い。
- 委員 多摩市の場合、全体の人口の増減というよりは、高齢人口が増えて生産年齢人口が確実に減り、世帯人口もまた減少していくことが問題である。そういった状況で人口を維持すること、もしくは増やすことが良いこととは限らない。全体の人口が増えたとしても、人口構成が偏ってしまえば、その層に対するサービスを提供できないというリスクが高くなるのではないかと。将来的な想定人口については一度増えてから減るという想定で適当な数字を取ればよい。上位想定と下位想定の間3,700弱は誤差の範囲である。
- 会長 総人口ではなく、中身が問題であることは事実。行政当局の試算でも高齢人口が増えて年少人口が減っている。そういった状況を想定人口のところで、全体の人口の中身の変化について述べていくことが必要だと思う。行政のあり方、市の成り立ちを考えると総人口で1万人くらい差が出ても大きな影響は無いが、人口構成で、老年人口が1万人増えて、年少人口が1万人減るとするのはかなり影響が大きい。そういった意味では人口構成に触れておいたほうが良い気がする。

- 事務局 第四次総合計画前期基本計画では、目標年次の人口を15万3千人としており、当初の想定と現時点とで5千人くらいの差がある。
- 委員 想定人口については14万8千人が良いと思う。人口を増やすのであればそれなりのインフラ整備が必要なイメージがある。人口構成の中身の問題については触れるべきだと思う。
- 会長 14万8千人という現状維持の意見が出たが、人口減少社会の中で維持していくのも大変である。
- 委員 人口減少社会の中では、維持していくにもそれなりの対策が必要である。行政側から見れば、税収も増え、人口も増えれば施策が展開しやすいが、これからはどこの自治体も税収も人口も減少していくという前提で基本構想なり施策なりを展開しないと、10年、20年後にギャップが出すぎてしまうのではないか。多摩市の場合、生産年齢人口が減って、高齢者が増えると予想されているので、財政状況を考える上でも、人口減ということは意識しなくてはいけないのではないか。
- 委員 今回の基本構想では大きな柱である子育て・子育てに資源を投入して、子育て・子育て世代の人に多く住んでもらう施策を進めようとしている。例えば、保育所に入所を希望している人には、必ず入所できる体制を保障しますというような施策を打ち出せば、都内から子育て世代が大量に転入してくるなど、ある程度施策を選択し、財源を集中していけば人口を増加していくことも可能かと思う。今後の計画の作り方、重点事業のおきかたによっては人口の増加ということも可能なので、希望的な要素も入れて決めても良いのではないか。多摩市の姿勢として、人口の増加を受け入れてにぎわいのあるまちを維持していくことを示していくか、社会全体の流れに沿って、人口は減少していくけれども、その中である程度のところで維持して大きくは減少させないということを示していくかだ。
- 会長 想定人口では、総人口のほかに、高齢人口が増えて、生産年齢人口が減るという20年後の試算があるので、これについて触れるということで良いか。
- 副会長 人口の内容については2ページの「人口減少・超高齢化社会の到来」のところで触れているので、さらに詳しく書く必要があるか。
- 会長 想定人口は14万8千人ということで決定する。
- 会長 次に将来都市像のキャッチフレーズについて議論を移したい。起草委員会で4つの案をだしていただいた。このほかに案があればそれも含めて議論したい。

将来都市像キャッチフレーズ案

- ①「みんなの笑顔 いのち にぎわうまち 多摩」
- ②「みんなの笑顔 みんなでつくるまち 多摩」
- ③「みんなが輝くまち・たま」～子育て・活気・やさしさ・住み続けたいまち～
- ④「いのち輝く やさしさのあるまち 多摩」

会長 この4つの案以外にも案があれば意見を出していただきたい。

会長 「みんなの笑顔」は「みんなが笑顔」としてはどうか。

- ①「みんなの笑顔 いのち にぎわうまち 多摩」
- ②「みんなが笑顔 いのち にぎわうまち 多摩」
- ③「みんなの笑顔 みんなでつくるまち 多摩」
- ④「みんなが輝くまち・多摩」～子育て・活気・やさしさ・住み続けたいまち～
- ⑤「いのち輝く やさしさのあるまち 多摩」

委員 感じかたに個人差があると思うので、最大公約数的に皆さんが何を選ぶかということで、

- 多数決でひとつ選んで、修正していけばよいのではないか。
- 会長 将来都市像についてはできれば全員の方の賛同を得るものにしたい。
- 委員 「みんなが笑顔 いのち にぎわうまち 多摩」が良いと思う。
- 委員 「みんなが輝くまち・多摩」が良いと思う。副題の「～子育て・活気・やさしさ・住み続けたいまち～」については「～住み続けたいまち～」に修正したほうが良いと思う。
- 委員 「みんなの笑顔」については「みんなが笑顔」としたほうがイメージしやすいということであれば、「みんなが笑顔」としても良いと思う。個人的には「みんなの（もしくは‘が’）笑顔 みんなでつくるまち 多摩」が良いと思う。
- 委員 「みんなが輝くまち・多摩」が良いと思う。子育て世代だと「子育て」、高齢者だと「住み続けたい」、子どもだと「活気」というように、いろいろな世代の人にとって具体的に自分に投影してイメージしやすいキャッチフレーズになっていると思う。
- 委員 将来都市像を掲げるときに成果をどう捉えていくかと考えると、「いのち輝く」とすると、いのちが輝いているかどうかを測定するのは難しい。どういう状態を輝いているとするのか。同じように「みんなが輝く」というのも、捉えにくいので、副題がついているのだと思う。笑顔というのは分かりやすい。「いのち にぎわうまち」というのと、「みんなでつくるまち」というのは同じことを言っているのではないかと感じた。⑤と⑥については人によって解釈が異なり、成果を図るときにはどうか。みんなが住みやすいまちであれば笑顔になるし、都市が活性化すれば、みんなが笑顔になる。そういった意味では、「みんなが笑顔 いのち にぎわうまち 多摩」は、基本構想全体の構成や内容を分かりやすく表しているのではないか。
- 委員 同じ言葉が繰り返されるのはくどい気がする。③はみんなという表現が重複している。それぞれの個性が輝いているということと、多摩ということ掲げているということで④の「みんなが輝くまち 多摩」が良いと思う。副題をそのままではなく、住み続けたいまちという気持ちを含めた副題を新たに考えてはどうか。
- 会長 子育ては施策の話で、活気ややさしさ、住み続けたいというのは状態である。並列に述べるのはどうか。
- 委員 「みんなが笑顔」は捨てがたいが、「住み続けたいまち」ははずせない気がする。
- 委員 「みんなが輝く」というフレーズは他の自治体の基本構想でも使われているように思う。「いのち にぎわう」というフレーズが印象に強く残っているので、②の「みんなが笑顔 いのち にぎわうまち 多摩」が良いと思う。
- 会長 今の意見から②か④が中心。住み続けたいという表現を残してキャッチフレーズを作りたい。
- 委員 「みんなが輝き、住み続けたいまち 多摩」ではどうか。
- 委員 命のにぎわいという言葉が良かった。「みんなが笑顔 いのち にぎわうまち 多摩」～みんなが輝き住み続けたいまち～ではいかがか。
- 委員 起草委員会で提案したときに、「笑顔」については「輝く」という言葉を具体化した表現として提案した。「笑顔」と「輝き」両方を使ってしまうと、イメージが重複してしまうかもしれない。
- 委員 「みんなが輝き住み続けたい」は「つづきたい」と平仮名表記したほうがやさしいイメージになる。
- 委員 折衷案であるが「笑顔 輝き みんなのまち 多摩」はどうか。「笑顔」がトップに来る

- と目新しい。「いのち にぎわう」とはどういう意味か。
- 会長 子ども、高齢者や障がい者などいろんな人が自由に共存できるイメージ。
- 委員 生物多様性、多文化共生ということも含んでいる。
- 会長 経済活性も含んでいる。
- 副会長 住み続けたいというのを将来都市像の目標にするのはどうか。目指すまちの姿で「安心して住み続けられるまちづくりに取り組みます」と述べている。
- 会長 将来都市像のキャッチフレーズは、皆さんの意見を踏まえて②の「みんなが笑顔 いのちにぎわうまち 多摩」とする。
- 会長 将来都市像の前文の「新たな都市像を次のように定めます」とあるが、「新たな」としてしまうと今までの都市像と違うものであるということになってしまうので、「多摩市の将来都市像を次のように定めます。」とすれば良いのではないか。
- 会長 次に、前回の審議会の意見を踏まえて修正した箇所について議論を進めたい。変更した部分について事務局から説明願いたい。
- 事務局 1 ページ基本構想の期間の 2 行目は後段の概要の部分に移し、合わせて基本計画についても、期間の 2 行目は後段の概要に移した。2 ページ「4. 社会的背景」の「3 点を挙げます」は「3 点が重要と考えます」とした。「(1)人口減少・超高齢化社会の到来」については、合計特殊出生率の具体的なデータを入れた。「(2)環境問題の深刻化と持続可能な社会への展開」では、3 R の取り組みなどの具体的なものは必要ないのではないかということで、「身近な環境問題のひとつである」以下の文を削除した。また、「多摩市環境政策推進本部」とライフスタイルの見直しについては不要ではないかというご意見をいただいたので修正した。文章全体を整理したときに、地球規模のものから、身近なものまでという文脈であったが、身近な問題である 3 R の取り組みの部分を削除したので、あわせて文章も修正している。
- 会長 多摩市廃棄物減量等推進審議会が付け加えられたが、この審議会には外部委員が入っているのか。
- 事務局 入っている。多摩市廃棄物減量等推進審議会等としたのは他にもみどりの審議会などもあり、代表的なものだけを取り上げたためである。
- 会長 特に意見が無ければ、3 ページに議論を移したい。
- 事務局 3 ページ「(3)地方分権から地域主権へ」については、前回の審議会で、地方分権と地域主権はどう違うのかという意見や、多摩市の取り組みについての内容が市民協働についての説明になっているという指摘があったので、後段の多摩市での取り組みに関する文章については、市民が主体となってまちづくりをするという地域主権、住民自治の考えに沿った内容を入れていったほうが良いということで文章を修正した。
- 会長 地方分権からさらに地方の自主性が進むという意味で地方主権という言葉が使われている。
- 委員 「多摩市では、平成 16 年 8 月に」、「多摩市では、市民が市民の手で」と「多摩市では」という表現が続けて使われている。「多摩市では平成 16 年 8 月に～制定しました。そのことにより～行動原則としています。」としてはどうか。
- 委員 「市民が市民の手で市民の責任で」と市民という表現が重複している。「市民が主体的にまちづくりに関わることを行動原則としている」でよいのではないか。
- 会長 「(3)地方分権から地域主権へ」については指摘のあった部分について修正することとする。

- 委員 「多摩市では平成 16 年 8 月に～制定しました。そこでは市民が主体的にまちづくりに関わることを行動原則としています。」としてはどうか。
- 会長 この部分については、事務局に再考していただきたい。
- 会長 次に 4 ページの「新しい公共の考え方に基づくまちづくり」について議論を移したい。
- 委員 前回の議論を受けて修正案を出した。新しい公共の考え方が一般的な考えと違うのではないかということと、多摩市で独自の解釈で使うのであれば、多摩市における新しい公共の定義が必要という議論があったと思う。
- 新しい公共について調べてみると、大きく 2 つの概念で使われているようである。ひとつは今まで行政が担ってきたことを市民、NPO や民間企業が主体的に担い、場合によっては行政が支援するということと、もうひとつは行政、市民、NPO 企業が対等な立場で協働、連携して公益サービスをおこなっていく全体を包含したものだ。多くの場合、前者の意味で使われている。鳩山首相の所信表明演説で新しい公共について述べているが、ここでも、市民や NPO の活動を側面から支援するというを言っている。国会答弁では、NPO が新しい公共の中心的な担い手になるということを行っている。
- 多摩市で言っている新しい公共は、後者の使い方であり、行政、市民、NPO や民間企業が対等な立場で協働、連携して公共サービスを担っていくということで使っており、一般的に言われている新しい公共の意味とは違うということで議論になった。
- 今後は、鳩山首相の考え方に基づいて、政府が具体的に動き出したら、新しい公共という概念は NPO などにウエイトを置いたものとなってくると思われる。
- 多摩市が戦略プランで打ち出した新しい公共を使うなら、多摩市では新しい公共についてこう考えているのだということを示していくことが必要であるという視点に基づいて修正案を提出させていただいた。
- 見出しは「多様な担い手によるまちづくり」と変更し、文章で多摩市の新しい公共について述べるという構成にした。
- 会長 「平成 18 年制定の多摩市戦略プラン」を削除して、「多摩市では市民、NPO、団体、企業、行政など～課題の解決に取り組む新しい公共を進めてきました」という比較的抽象的な表現にしたらいかがか。
- 委員 新しい公共という考え方によるまちづくりは、戦略プラン以前から実践されている。
- 会長 タイトルは「多様な担い手による」では無く、「『新しい公共』による」とし、「平成 18 年制定の多摩市戦略プラン」を削除して提示された案を基本にして修正することとする。
- 事務局 前回提案のあったとおりに 5 ページは訂正した。
- 会長 6 ページの目指すまちの姿の概念図について資料 50 を参照いただきたい。概念図について提案だが、巻末に別表のような形で入れてはどうか。
- 事務局 文章については、前回指摘のあったとおりに、下の部分で四角囲いしていた部分の文章を本文とつなげて修正した。
- 会長 「実現したときのまちの状態」は「まちの姿」とか、「まちのかたち」にしたほうが良い。まちの姿そのものなのか、主要な部分を示しているのか。また、全部を網羅しているのでなければ、「まちの主な姿」などとしたほうが良い。
- 会長 概念図について、ここでは入れないで文章を続けていくか、6 ページに入れておくか。
- 委員 概念図についてはこの部分に入れたほうが良い。
- 委員 私も概念図は 6 ページにあったほうが良いと思う。また、「実現したときのまちの状態を

- 具体的に表すものです。」という表現で、具体的かといわれると、あまり具体的ではないように思うので、「イメージとして表したものです」というような表現にしたほうが実態にあっている。イメージをつかんでいただくためにはここに概念図があったほうが良い。
- 委員 概念図は冊子になったときに裏表紙に入れたり、使い方はいくらでもある。
- 会長 図については視覚的に訴えるということで、いろいろな場所で使う可能性はある。概念図については、案のとおり、6ページに入れることとする。
- 委員 分野6の白抜きの中の文章について、緑色の輪に沿うようにできれば、緑色の輪が環境を表していることが分かりやすい。案のとおりだと、分野5の下にあるように見える。
- 委員 「広域的な広がり」というのはどういう意味か。「広域」と「広がり」では意味が重複しないか。
- 会長 広域的な広がりの部分については、修正前の案だと、地球、世界、国とあった。
- 事務局 修正前の図だと、輪が何重にもなって分かりにくいということで、「広域的な広がり」とし、輪をひとつにまとめた。
- 会長 広域的な広がりの部分については、修正前の案のとおり地球、世界、国と具体的に記入することとする。
- 委員 7ページで持ち越しになっていた件については次回に議論していただきたい。分野1のところ「健やかな体をそなえた」の「そなえた」という言葉が議論を呼ぶかもしれない。教育振興プランでは、「健やかな体の」としている。健やかな体については、文部科学省の資料でも使っている表現なので問題ないと思う。
- 会長 文章のボリュームなどの全体のバランスや表現については、私と事務局で再度検討する。
- 会長 本日はここまでとする。